

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度 第3回相模原市経営評価委員会				
事務局 (担当課)		経営監理課 電話042-769-9240(直通)				
開催日時		令和3年3月9日(火)午後6時~午後7時30分				
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館2階 第1特別会議室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	市	5人(下仲副市長、財政局長、財政部長、総合政策部長、政策課長)				
	事務局	8人(経営監理課長他 7名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議事 (1) 「(仮称)相模原市行財政構造改革プラン」について 3 その他				

## 審 議 経 過

### 1 開会

定足数及び傍聴者の確認を行い、経営評価委員会を開会した。  
主な内容は次のとおり。

### 2 議事（以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は市・事務局の発言）

#### 【資料1・2に関して】

資料1・2について、事務局より説明し、質疑応答・意見交換を行った。

改革プラン（案）については、方向性を示しているもので、個別事業の具体的な結論を示しているものではないと理解しているが、パブリックコメントの各意見は、具体的な結論と捉えた上で意見をいただいているものが多いと感じる。

例えば、アイススケート場については、「廃止の方向性に反対」という意見が多いようだが、改革プランにおいて存廃まで決定するものなのか。または、個々の事業実施段階において評価を行い決定するものなのか。

改革プラン（案）において、アイススケート場については、「廃止を含めた検討」としており、具体的な結論ではなく、方向性として示している。

改革プラン（案）の中では、事業ごとに、明確な結論を示しているものと、方向性を示しているものの、両方が混在している。

結論を明確に記載しているものもあるとのことだが、改革プラン（案）を見る限りでは、全体として、大きな方向性を示しているものと捉えている。

また、本委員会は、改革プラン（案）に関して提言は行うが、結論を求められているものではなく、結論は市や市議会において議論の上、決定するものであると理解している。

その上で、本日の委員会において示されている資料は、個々の事業について市の方向性案が示されているが、何を議論することを想定しているのか伺いたい。

改革プランについては、市長を本部長とした行財政構造改革本部会議において、最終的な決定をしていくこととなる。

本日は、市として、パブリックコメントにおける意見をどのように捉え、どのような方向性で考えているのかをお示しさせていただいており、その内容についてご意見を賜りたい。

例えば、アイススケート場では、「廃止を含めた検討」を行うことに対し、パブリックコメントにおいては、反対意見が多く提出されている。

このような施設の存廃について意見を伺う場合、廃止に賛成する意見はなかなか出て来ないのではないかと思いますので、「市としては廃止で進める」といった明確な意思表示をした上で、意見をいただくほうが効果的ではないか。

アイススケート場については、「廃止を含めた検討」としているが、他事業については、極力、各事業の考え方を明確に記載し、その方向性に対してご意見をいただいている。

今後、パブリックコメントでの意見を踏まえた中で改革プランを策定することとなるが、策定後においても、市民の皆様にご理解をいただけるように丁寧な説明が必要であると考えている。

パブリックコメントについては、利害関係のある方から反対意見をいただくことが多く、今回もその傾向があると考えている。

一方で、利害関係ない方から意見を聞くことも重要であり、パブリックコメントは、その機会でもあると考えている。

橋本駅周辺整備推進事業については、事業に反対する意見が出ている。事業に賛成する意見は出さない人が多い。

事業に対する必要性や効果は、しっかりと説明することで反対意見を和らげることに繋がるのではないかと。

パブリックコメントについては、例えば、10万人の対象者がいて、1万人の意見をいただいているにもかかわらず、残りの9万人の大半は興味がないと感じている方が多いと思う。とはいえ、そのような方々から意見を伺うのは難しい面もある中で、パブリックコメントにどれほどの意義があるのかなと感じた。

今回の資料にはないが、改革プラン（案）には潤水フェスタや桜まつりなど、実行委員会方式により開催されているイベントについて記載があるが、市が主体となっていない事業について、この計画の中で記載していくべきなのか。

また、財政が厳しいという状況において、大きな手当をするというより、小さな手当を数多くするように感じる。

実行委員会方式に関するイベント等については、関係する団体等と未調整の状況があるのは事実である。今後、ご理解をいただけるよう丁寧な説明に努めたい。

小さな手当となっているという指摘だが、改革プラン（案）では、出来ること全てに取り組んでまいりたいと考えている。

その中で、大きな手当となり得る、大規模事業をどのように整理していくのかを考えなくてはいけないことから、第1期から取り組むよう記載させていただいた。

また、公共施設についても課題が多いことから第1期から検討・見直しに着手していきたいとの考えを反映させている。

施設の廃止に反対といった声は、施設利用者を中心にツイッター等でも拡散されていたものと認識している。大きな反響があったということであり、そのような中において、当委員会では、委員が名前や顔を出して議論している。

施設の廃止の方向性について附議され、当委員会で決定しているような印象を市民に与える点は、過度な負担であると考えている。

改革プラン（案）が新聞報道等も含めて反響が大きい中では、市民が誤解することのないよう、当委員会が意見を伺うための機関であることを、コミュニケーションという意味においても、市HP等で明確に発信していくべきではないかと。

新聞報道等もされていた中で、改革プラン（案）に対する説明が不足していたという面があると反省している。

策定後に、市内で説明会を開催して周知・説明を行うことも考えているところであり、丁寧な説明に努めていく。

丁寧に説明していくということだが、過去の状況から、これまで市民にしっかりと意図が伝わった試しがないと感じている。

意図が伝えられていない状況に対して、しっかりと手当をしていかないといけない。文章として記載したので、それでよいということではない。

ご指摘のとおり対応が不十分であった。今後、説明会を開催するなど、対応を検討していきたい。

財政が厳しいといった状況や、改革プランを策定する必要性が市民に十分に伝わっていないのではないかと懸念がある。

市の財政というテーマは、市民にとっては理解が難しい部分もある。説明会の開催だけでなく、わかりやすい資料の作成にも、これまで以上に努めていきたい。

改革プラン（案）においては、冒頭、多くのページを使って財政の逼迫状況を説明しているが、パブリックコメントでの厳しい反応の結果を受けると、市民の方々が十分に理解できる内容ではなかったということではないか。

市の基本的な考え方は、改革プラン（案）を示すことで、一定の説明責任は果たしているとして、今後は、具体的な議論に進んでいくにあたり、記載内容の難しさを解消すること、例えば、高校生にも理解できる内容を目指すといったことも一般的には1つの水準と言われるところであり、かみ砕いた内容を目指していくことが必要である。その上で、廃止や見直しなどの取組を進めて行くというプロセスが重要となる。

改革プラン（案）の概要版において、既存の公共施設等の見直しに関する記載では、他施設が「民間活力の活用」等となっている中で、アイススケート場だけが「廃止」となっており非常に目立つ。概要版だけを見る人は、なぜアイススケート場だけが廃止なのかが理解できない。さらに本編を見ていくと、より詳細な説明は記載されているが、個々の施設に対する説明であり、横並びで見た時に、なぜこの施設が廃止なのかは理解が難しい状況である。

現時点では、各施設の状況に応じて方向性を示したことから、次のプロセスでは、他施設との比較の中で、方向性を説明していくような段階を踏んでいく必要がある。

そのようなプロセスの中で、財政状況とあわせて、市民の方々に理解していただけるよう、説明会等を行っていく必要がある。

概要版や財政状況に関する資料を用いて、ご理解いただけるよう工夫に努めたが、まだまだ努力が足りなかったと認識したところであり、いただいたご意見も踏まえ、より工夫していきたい。

パブリックコメントでは、改革プラン（案）全体を通した考え方がうまく伝わらなかったといえる。施設でいえば、「安く使いたい」「廃止しないで欲しい」という意見は当然にあることだが、真に問うているのは、「税金によって市民全員で負担しているから安く使うことが可能となっている。これを今後も続けていく意味があるのかどうか」という点である。

収支均衡という目的が十分に伝わっていない中では、受益者負担の考え方を明確に記載し、理解していただかないといけないのではないかと考える。

また、民間が提供できているものは、民間に担っていただくことが結果的により良いサービスを提供し、市は他の公共として重要な部分、ニーズの高い部分に人的資源を集中することができる。

民間で代替できる分野や公共が担わなくてもよい部分を明確に提示していく、公共と民間との役割分担については、例えば、「行財政改革の視点」の部分に記載していく必要があるのではないかと考える。

受益者負担の考え方、公共と民間の役割分担については、改革プランに明記していくのか、策定後の説明会等において説明していくのか、方法も含めてご意見を参考としたい。

例えば、アイススケート場であれば、改修等を含めた維持管理について、税金を投入せずに実施していくためには、利用者にいくら負担いただく必要があるのか、利用者が負担しなかった場合に、税金として市民全員が平等にいくら負担いただかなくてはならないのかを、明確に示していく必要があると考える。

受益者負担については、これまでも本委員会で議論されてきたところであるが、市の方針はどのような状況か。

「受益者負担の在り方の基本方針」に基づき、3年に1度の周期でコストを把握した中で使用料や手数料を改定しており、直近では令和2年3月に議会審議を経て、同年10月から料金改定を行っている。

現状のコストのみではなく、改修等の将来コストも踏まえた中で議論が必要とのことで、どのように盛り込むかは今後の議論ではあるが、並行して進めていただければと思う。

保育所について、社会福祉法人の意見が出ているところである。この点において、以前は社会福祉法人でなくては民間保育園が運営できなかったが、現在は、株式会社でも運営することが認められている。国・県・市から運営補助は行われているが、社会福祉法人が優遇されている現状にあると考えており、運営条件が同じ中で、土地の使用に対して、社会福祉法人だけが優遇を受けている現状は理解されないのではないかと感じる。

保育ニーズに対応するために、保育所整備を進める上でこのような措置を行ってきたものの、ご指摘のとおり、公平性の観点から貸付の在り方をよく検討していく必要があると考えている。

歳入確保策として、他都市からの移住や就労、企業進出などの記載があるが、ポストコロナも踏まえた戦略的な政策について、より具体的な記載が改革プラン（案）に必要ではないかと考える。

歳出抑制ばかりが議論され、歳入確保について、よく議論されていないのではないかという指摘もある。パブリックコメントにおいても、都心部から地方へ移転する企業を市に誘致すべきとの意見や、担税力のある世代に本市の魅力をアピールすべきといった意見、本市に企業誘致の好条件が揃っていることを具体的に記載し、企業誘致に取り組むべきといった意見もいただいている。

本市としても、歳入確保策をより具体的に記載し、積極的に取り組む姿勢を示していきたい。

受益者負担について、例えば、健康保険では定期的に本来の料金と実負担料金の両方が示されている。制度が継続していくと、医療機関の利用に当たっては実負担料金のみを負担することが当然となってくる。

現在、公共施設の利用者は、その当然となっている状況ではないかと考える。このことから、本来かかる費用というのを可視化して、コミュニケーションという視点からも示していく必要はあるのではないかと考える。例えば、施設利用において、利用料金の支払いを行う券売機等に可視化した状況を示すなどの方法も効果的ではないかと考える。

これまでは、財政状況の説明といった大きな部分でのみ議論してしまっていた面もある。ご指摘のとおり、より身近な部分で感じることができる方法を模索していきたい。

例えば、歳入確保については、税を徴収することばかり考えるのではなく、企業の誘致に当たって、税の優遇措置を行うなどの方法はいくつかではないか。

これまでも、企業誘致施策として固定資産税等の減免制度や補助制度等の措置を講じてきた。歳入確保は重要であることから、特に改革プランの第2期において、様々な取組を進めていきたい。

受益者負担については、市民だけではなく、事業者に対しても求めていく必要があり、より明確に示していく必要があるのではないかと考える。

パブリックコメントでは、大規模事業の実施について反対意見もあるわけだが、この点についても受益者負担の考え方を示すことでご理解をいただけるのではないかと考える。

市が負担するインフラの部分と、開発が生み出す利益を踏まえ、事業者にも負担してもらうようなスキームを構築することが、市税収入確保において重要といえる。

例えば、大阪市の「大阪版BID」など、条例で開発利益を税に戻すような制度が実例としてあるので、研究していく必要があるのではないかと考える。

様々な事例を研究するとともに、改革プランへの掲載か、説明資料等による反映がよいかについても検討していきたい。

### 3 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以上

相模原市経営評価委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	山口 由紀子	相模女子大学 副学長・ 人間社会学部 教授	委員長	出席
2	川崎 一泰	中央大学 総合政策学部 教授		出席
3	出雲 明子	東海大学 政治経済学部 准教授		出席
4	霧生 卓	公認会計士		出席
5	坂本 堯則	相模原市自治会連合会 会長	副委員長	出席
6	染谷 耕平	相模原商工会議所 青年部副会長		出席
7	三好 上次	公募委員		出席
8	神田 広幸	公募委員		出席
9	青木 庸江	公募委員		出席
10	澤野 光晴	公募委員		出席